

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	21	利用者同士の関係づくりの支援	利用者一人でも孤立することなく、笑顔で手を取り合い、楽しく参加できるようにする。	簡単な手作業、集団活動に職員も一緒になって参加し、仲間同士でトラブルにならないよう手を差し伸べ、十分に会話しながら、利用者が自信を持ち、喜びを持てるように支援する。	24か月
2	7	虐待の防止の徹底	些細な言動も見逃すことなく、態度や行動をスタッフ全員が認識し、その日のうちに対応を話し合い、虐待を防止する。	ユニット会議、職員会議で虐待についての内部研修を今後も繰り返し行いながら、利用者一人ひとりに気持ちを寄せていくことを大切にし、利用者の生きてきた過程を思い、一日一日を大切に接することで、職員の優しさが伝わり、信頼関係が築けるよう支援していく。	24か月
3	23	利用者の思いや意向の把握	一人ひとりの生活歴を大事にしながら、本人が興味のある事やできる事の把握に努め、日々の生活が充実したものとなるようにする。	現状維持の方が多かったため、再度活気のある生活とは何か、生き生きとした暮らしをどのように提供していくかを考え、早急に個々の毎日の日課表を作成し、一人ひとりのできる事を踏まえて実行していく。	24か月
4	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援（夜間の対応の難しさ、家族や嘱託医の意向を踏まえた対応等）	家族や嘱託医の意向を踏まえ、「最後までここで」との家族の希望に沿えるようにし、かかりつけ医は夜間の対応が難しい中で経口摂取ができ、状態が安定している場合は寝たきりであっても支援できるようにする。	常に話し合いをしながら、観察や判断、情報提供等に取り組み、状態の悪化時には家族に付き添っていただきながら対応する。また、医師とも連携しながら、できるだけ家族の要望に応えていくように取り組む。	24か月
5	36	利用者一人ひとりの人格の尊重	様々な研修に参加して認知症についての理解を深め、利用者の言動を拒否・否定せず、間をおいてじっくり話を聞き、受け止めることを大切にしながら支援していく。	丁寧な言葉がけ、相手の話をうるさく思わず、徘徊者には一緒に行動しながら会話を持つ。また、帰宅願望で外に出たい時には一緒に出て歩き、連れて戻ってきたら「お帰りなさい」と優しく迎えてあげることを大切に、暖かい対応を心がける。	24か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。